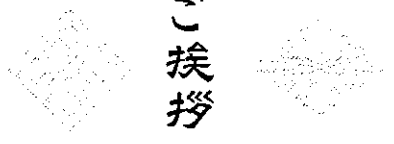


ご挨拶



舞踊家・尾上菊之丞と狂言師・茂山逸平が互いのジャンルを超え、新しい形としての「舞踊と狂言」の可能性を模索する為に作った逸青会。

これまで「茶壺」「千鳥」という作品では、違うキャラクターの登場人物を舞踊と狂言の表現の違いで描き、二つの作品を手がけてまいりましたが、今回の「樋の酒」では太郎冠者、次郎冠者という同じ立場に立ったキャラクターを舞踊と狂言で表現する事に挑戦致します。

「逸青会」新たな試みをお楽しみ頂ければ幸いです。

尾上菊之丞
茂山逸平

舞踊まかしよ

本名題を「寒行雪姿見（かんぎょうゆきのみすがたみ）」という歌舞伎変化舞踊の一つで、「汐汲」と共に三代目坂東三津五郎が初演。「まかしよまかしよ」と叫びながら、寒参りの代行などをして鉄を背い歩く願人坊主の姿を舞踊化したもので、軽妙で洒脱という言葉がぴったりの作品。

狂言文蔵（ぶんぞう）

主人に内緒で京都に行っていた太郎冠者は主人の伯父から珍しい食べ物を食べさせてもらったのにそれが何であったか思い出せません。常々主人に言われていた通り「ものによそえて」の覚えたと言うのですが、それが、それは主人の日頃読んでいる「石橋山の合戦」の物語。何を食べたのか気になって仕方ない主人は覚えている物語を太郎冠者に語って聴かせることにします。

「平家物語」を狂言の中に「語り」で盛り込んだ秀作です。

樋の酒（ひのさけ）

主人が留守になると良からぬ事を企む太郎冠者と次郎冠者。一計を案じた主人に酒蔵と軽物蔵にバラバラに閉じ込められた二人の冠者はなんとかして二人で酒宴をしようと知恵をしばり二人で酒を飲みだしますが。。。。別々の蔵に閉じ込められた二人の様子を『逸青会』ならではの舞踊と狂言の演出の違いを利用して新しく構成しました。

（補筆協力・今井豊茂）

逸青会

尾上菊之丞・茂山逸平二人会

2012年 11月25日(日)
13:30 開演
鏡仙会能楽研修所

企画・主催 逸青会

舞踊

まかしよ

尾上菊之丞

唄

今藤政之祐

今藤龍之右

三味線

杵屋栄八郎

今藤長三朗

囃子

藤舎貴生

堅田新十郎

堅田喜三郎

望月正浩

藤舎成光

狂言

文蔵

茂山逸平

茂山七五三

後見

島田洋海

樋の酒

作曲 藤舎貴生

尾上菊之丞

茂山逸平

唄

今藤政之祐

今藤龍之右

三味線

杵屋栄八郎

今藤長三朗

囃子

藤舎貴生

堅田新十郎

堅田喜三郎

望月正浩

藤舎成光

島田洋海